

雨も風も関係ない 2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会開催

5月16日、横浜の山下公園およびその周辺地区で、世界トライアスロンシリーズ横浜大会が開きいされた。当日は午前中が雨だったにもかかわらず、多くの人たちがつめかけ、選手達を応援した。

午前中は朝早くからエリートパラトライアスロンが行われた。様々な障害を持つ選手が雨の中、熱い戦いをくり広げ、会場は大いに盛りあがった。このパラトライアスロンでは、PT5（視覚障害者）で山田敦子選手が見事2位になり、表しよう台に上がって、大きなかんせいをあびた。

今回の大会について山田敦子選手は、「今年は雨でしたからね。自転車のスリップがこわかったです。でもガイドの人がずっと横で声をかけてくれて、となりにずっと応援団がいる感じなので、（大会では）目が見えないって少し得かもしれませんね」と前向きな発言をしていた。

どの選手も天候によって作戦を変えたり、雨の日でも普通に練習もするという。PT2



力走する1位のハビエル・ゴメスノヤ選手（左）【撮影・田中昌樹】



PT5の部で2位に入った山田敦子選手（右）。左はガイドの武友麻衣さん【撮影・田中昌樹】

の中山選手は練習について、「川べりの風と戦っている」とコメントしていた。

午後からは男子エリートのレースが行われて、スペインのハビエル・ゴメス・ノヤ選手がきょう的なた速さをみせて、見事1位に上がった。

この「世界トライアスロンシリーズ」は、横浜大会のほかにも9つの大会があり、横浜大会の次はイギリスのロンドンで行われる。最後の10戦目はアメリカのシカゴで行われ、どの大会も注目が集まる。そして、来年のリオデジャネイロオリンピックでも、この競技は正式種目であり、今後の選手達の走りにも期待が高まる。

【田中昌樹】

こども記者紹介

田中 昌樹
横浜市立
黒須田小学校・6年



今回こども記者を体験してみて、多くの選手の人達と話すことができたり、様々な写真をとったり、記事やコラムの内容を考えたりと、きょうな体験を沢山させていただきました。

例えば、一般の人が入れないような所で写真をとったり、表しよう台ののったり、給水場の様子を見たり…。今後絶対にできないような事もできました。

人と交わり、考えることを学ぶことができ、よかったです。

【横浜市体育協会・吉山博之】

雨の日のパラトライアスロン



今回、この世界的に有名な大会で印象的だったのは、「パラトライアスロン」だ。特に印象的だったのは、雨。ぼくは最初、「雨でパラトライアスロンってできるの？選手の体的にも無理でしょ。」とつぶやいていた。しかしパラトライアスロンの選手達が、晴れの日と同じように走っていたのをまのあたりにして、ぼくはびっくりした。

朝起きたとき、「チエツ。今日雨かよ。ついてないなあ」と思ったが、逆に雨が降ってくれたおかげで、晴れの日ではできないような質問をすることができた。みんな、雨の日でも変わらず練習を続けることを聞いた。その精神力にたくおどろいた。これはパラトライアスロンに関係なく、大切な事だと思う。少しの事でくじけない、そういうことを選手から教えてもらった。そして、選手達は自分の順位に関わらず、笑顔だった。選手達の笑いには、自分の中の達成感があると思った。ぼくも、目標をしっかりとって、それに向かってがんばる事を大切にしたい。

【田中昌樹】

こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスを行った事前ワークショップ（5月6日）、荒天の中、朝早くからの大会取材（5月16日）と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ（5月24日）。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われますが、今回参加したこども記者のみなさんは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力

